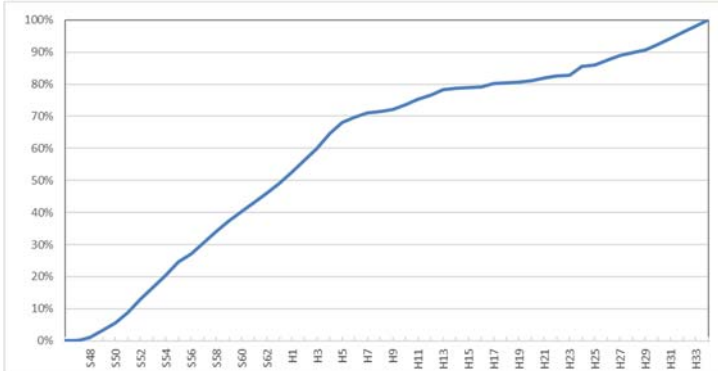


平成 29 年度再評価対象事業箇所
(対象：平成 24 年度再評価実施事業)

(再評価実施後、一定期間(5年)が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課案)
	再評価 時点 H24	有田川 河川整備交付金 事業(地域自主 戦略交付金：広 域河川改修事 業)	流路是正、狭窄部解消を 行い、治水安全度を向上 し、流域の浸水被害の軽減 を図る。 ・計画流量 1,250m ³ /s ・計画治水安全度 1/50 ・流域面積 79.1km ²	全体事業費：C=154億円 工期：S43～H29 改修延長：L=4,700m 計画流量：1,250m ³ /s 計画治水安全度：1/50 事業内容：掘削・築堤・ 護岸、樋管3基、橋梁16 基、堰5基	下流部の河床掘削を残 し改修が完了してい る。 (H23末進捗率 87%) (年平均進捗率 2.0%)	・佐賀県行財政改革緊急プ ランver.2.0(H19～H20) ・ " ver.2.1(H21～H22) ・佐賀県行財政運営計画 2011(H23～H26) (地域の状況) ・流域内下流部にて、宅地開発 が行われ、市街地化が進んでお り、浸水被害防止対策が急務で ある。 ・残土受入地の調整が見込ま れ、円滑な事業進捗が図られ る。	最新のマニュアルに基 づき、費用対効果 (B/C)を算出し た。 (B/C) = 1.02	建設発生土の有効 利用(埋立地)に より、総合的なコス ト削減を図ってい る。	再評価実施後5年 が経過	継続
	現時点 H29	有田川 河川整備交付金 事業(広域河川 改修事業)	流路是正、狭窄部解消を 行い、治水安全度を向上 し、流域の浸水被害の軽減 を図る。 ・計画流量 1,250m ³ /s ・計画治水安全度 1/50 ・流域面積 79.1km ²	前回評価時より工期が 延長した。 全体事業費：C=154億円 工期：S43～H34 改修延長：L=4,700m 計画流量：1,250m ³ /s 計画治水安全度：1/50 事業内容：掘削・築堤・ 護岸、樋管3基、橋梁16 基、堰5基	下流部の河床掘削を残 し改修が完了してい る。 (H28末進捗率 92%) (年平均進捗率 1.0%)	(過去の災害実績) ・平成2年7月 時間最大雨量 75mm 浸水戸数 床上 1戸 床下 54戸 (地域の状況) 氾濫区域内の土地利用につ いて、平成24年度以降の大規模 開発や宅地造成は確認されな い。 伊万里市全体の人口は減少 傾向である。	最新のマニュアルに基 づき、費用対効果 (B/C)を算出し た。 (B/C) = 1.005	建設発生土の有効 利用(埋立地)に より、総合的なコス ト削減を図ってい る。	再評価実施後5年 が経過	平成2年洪水被 害を軽減する ため、流路是 正、狭窄部解消 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 全・安心に寄与 するためには、 当事業の継続 が適当である。
	理由等			・河川環境に配慮した 河道掘削を実施してい ることによる工期の延 長 ・河床掘削(13万m ³)の 残土受入地の調整によ る工期延長	進捗率 	前回評価時と 比較して要因の 変化はほとんど なく、費用対効 果の値はほぼ同 じである。	(環境調査) ・平成16年度に水 棲生物調査を実施 したところ、ワケ シマザサ等の貴重種 や多くの魚介類・ 底生生物の生息が 確認されたことか ら、環境調査を行 うこととした。 ・平成17年度から モニタリング調査 を行い、魚介類・ 底生生物の生息状 況を確認している が、生物等の復元 が確認され、河道 掘削による影響は 少ないと考えられ る。			